

「入門スポーツ科学」の出版

“スポーツ科学”という言葉は、わが国では新聞、テレビなどで度々使用されているので、一般によく知られるようになった。だから、多くの人たちは、そのような学会が存在し、研究雑誌が発刊されていると思うだろう。しかし、わが国ではそのような学会はないし、スポーツ科学という名称をつけた研究雑誌も一時期(1982～1997年)、「Japanese Journal of Sports Science」が発刊されたに過ぎない。

第二次世界戦争後、アメリカ合衆国の助言に基づき、「大学設置基準(1956年10月文部省令第28号)第22条によって、大学は保健体育科目を開設するものとする」となった。これを受けて“体育”についての学問的裏付けが必要という理由から、“体育学”が誕生し、日本体育学会が誕生した。各大学に体育学の教員が配属され、体育学の会員が増加した。その後、東京オリンピック(1964年)開催を機に、“スポーツ”という言葉が広く使われるようになった。その結果、体育館でスポーツが行われ、国民体育大会はスポーツ競技で構成される、というように混同して使われるようになってしまった。

筆者は、“スポーツ”に対して学問的裏付けが必要であると、東京大学を通して文部省へ“体育学講座”に隣接して大学院博士課程を有する“スポーツ科学講座”の新設を申請し、1987年4月初代主任教授に就任した。しかし、古くからある体育系大学の名称は、体育学を使ったままであり、新しい体育系学部の名称は“健康スポーツ”が使われる傾向にある。

その後35年が経過した。スポーツ科学の対象が身体運動であるため、さまざまな側面からの研究が必要であって、「スポーツ科学」体系構築がなされる試みはなかった。例えば、日本学術協力財団が発刊したスポーツにかかわる書籍名を「スポーツの科学」とされたのである。そこで、“スポーツ”を中心においた学問体系を提案したいと思い、初心者でも理解しやすいようにと、入門と冠した「スポーツ科学」を発刊することにした。スポーツ指導にかかわる若い人たちからの感想とともに、専門とする人たちからのコメントをいただきたいとお願いするしだいである。

2022年3月

宮下充正